

研医会図書館所蔵の林用之稿本『辛酉漫録』

安部 郁子

公益財団法人 研医会図書館

昨年、研医会図書館所蔵の森立之稿本とされる『千金方疏證』についてご報告したが、その折に当館には森立之の弟子であったらしき林用之の筆写する本が何冊かあることを申し上げた。森立之が筆写した『葉雅』を写すほか、『医事四十四問』『医籍年表』『桂川医話』を筆写している。こうした中に林用之のその人が書いたと思われる『辛酉漫録』なる冊子があるのでご紹介したい。

【書誌について】 大きさ23.2×15.7cm, 表紙題箋には「辛酉漫録 林用之／所蔵」と書かれる。本文は四周単辺, 有界(刷), 10行の用箋の裏を使って書かれている。表側にも食禁や本草についての文章が綴られている。表側の文字の墨色は濃く, 裏写りしているため非常に読みにくい。巻頭には「辛酉漫録 一般扇散人林用之」とあり, 全体で39葉。何も書かれていない頁もある。37葉目には「辛酉十月五日達磨忌日」という記載があり, また巻末のページに「庚申六月廿四」とも書かれる。

【編綴】 編綴の概略と各部分のページ数・行数を示す。

- ① 朱筆で『傷寒論』条文の番号を書き解説を記すページ——6つの条文についての記述 4ページ
- ② 「太陽下篇記聞」に続くページ。朱筆で番号あり——22の条文についての記述 22ページ
- ③ 「太陽下篇 壬戌四月三日夜輪講」に続くページ——23の条文についての記述 18ページ
- ④ 「集成曰……」に続くページ——2ページ(最後に四月十二日の日付がある)
- ⑤ 空白のページ(俳句がひとつ大きく書かれている)——6ページ
- ⑥ 「通脉四逆方後注釈」に続くページ(朱筆で「以下雑記」とあり, 庚申十一月十一日聞書と日付がある)——2ページ
- ⑦ 「輯義正誤 林用之筆録」に続くページ(最後に「右三部九候論 枳園先生攷注素問穿鑄中／所技鈔也 文久紀元辛酉三月六日朝書 一般扇散人」と記載がある)——15ページ
- ⑧ 文字や用語について記載されているページ(最後に「辛酉十月五日達磨忌日……右枳園先生述」と記載がある)——5ページ
- ⑨ 「小膽臆病論集」と題する文——2ページと2行(嘉永甲寅と記載あり)
- ⑩ 「五藏論」4行, 「天弓……」に続く文(右 曲直瀬養安院君自製 と記載あり)——1ページ
- ⑪ 「右枳園先生」と記載のある行書の文と2行の文——5行

【内容】 『辛酉漫録』は林用之が受けた講義の内容を記録した冊子と思われる。①②③の部分では『傷寒論』条文番号が朱筆で掲げられ, その解説がなされているが, すべての条文について記述しているわけではなく, 番号は飛んでいる。森立之が必要な部分のみポイントを絞って臨床経験などから方剤の加減を紹介したり, 他の書物を引用するなどして条文の意味を説いていたのだろう。

【考察】 記載されている年記をみると, 壬戌年は1862年(文久2), 庚申年は1860年(安政7・万延元年), 辛酉年は1861年(万延2・文久元年), 嘉永甲寅は1854年(嘉永7→安政元年)ということから, 1854年から1861年頃まで立之の周囲にいた人物だと考えられる。所蔵の『傷寒提要』識語には「上毛甘楽艸医氏林用之識」とあり, 群馬県の人であったかと思われる。書誌学的な考察や医学的な考察はもちろん, 中には「外台秘要 造淡鼓法」などという料理の方法が書いてあり, 森立之の講義が幅広く楽しいものであったことを伝えている。この『辛酉漫録』の表側には食についての内容が書かれているが, 森立之は本草からさらにすすんで食禁や食養などにも興味があったのだろうか。今回冊子の綴じ糸を外し表裏ともスキャンした。さらに表側についても調べようと考えている。